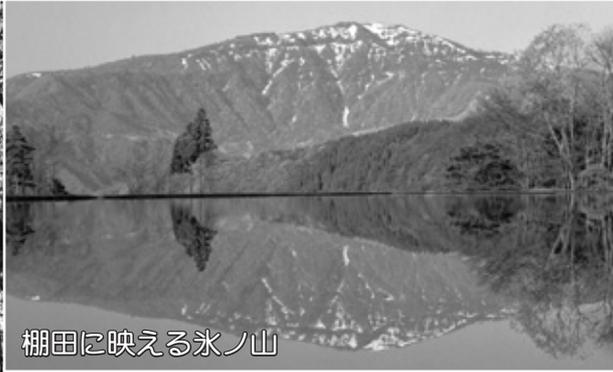
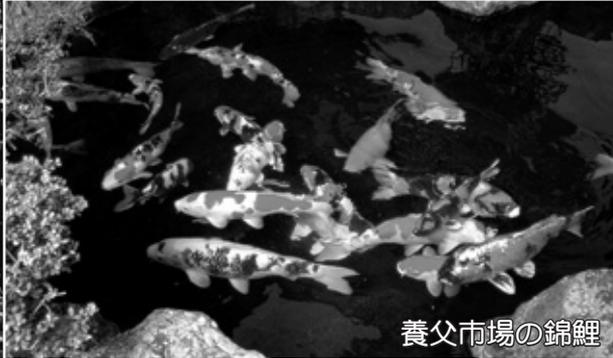




妙見・三重塔



棚田に映える氷ノ山



養父市場の錦鯉



名瀑・天滝

# 平成20年度

# 施政方針

第25回養父市議会定例会が、3月4日から27日まで開かれ、梅谷市長は平成20年度の各会計予算案を提案するにあたって、施政方針を述べました。

引き続き、平成20年度も厳しい財政状況が続くことから、職員一丸となって行政改革を推進するとともに、よりよい養父市づくりのために、喫緊の行政課題については積極的に事務事業を実施します。

今月号では、平成20年度の施政方針(抜粋)と予算の概要をお知らせします。

## 市政テーマ 「地域を守り、地域とともに生きる」

### はじめに

平成20年度一般会計予算をはじめとする重要案件を提案し、ご審議をお願いするにあたり、改めて市政に対する責任の重さを痛感しているところであります。

本年度においても、養父市のまちづくりに全力を賭して取り組む所存です。ここに、施政方針と主要施策を中心に所信を申し上げ、市民ならびに議員の皆様のご理解とご協

力を賜りたく存じます。

私は、急逝された佐々木前市長の意志を受け継ぎ、3年間にわたって養父市の礎を築くため、まい進してきました。依然として養父市を取り巻く環境は厳しい状況にあります。一つには財政状況です。三

位一体改革による地方交付税の減額、補助金の一般財源化、起債の許可移行に伴う実質公債費比率の導入等の影響により、市の財政状況は極めて厳しい状況にあります。加えて昨年、兵庫県の歳入に大幅な不足が生じたことから、平成20年度以降において兵庫県の本格的な行政改革が行わ

れることとなり、今後の市政運営に大きな影響を及ぼすことが危惧されます。

本市は厳しい財政状況にあるため、特に行政改革に取り組む、合併後246億円あった一般会計予算を、平成20年度では実質的に168億円と78億円削減しましたが、財政課題の一番大きな問題は市債の残高にあります。平成19年度実質公債費比率は21.4%となり、国が健全と認める18%未満と比較すると依然として高い水準となっております。また、市民一人当たりの市債残高は、平成19年度末で219万円と全国的に高い水